

# FUZIKO®まんがロードフェスタ 2014

文学部卒 小説家：氷月あや [松本彩]

## ● まんがロードとは

富山県氷見市の比美町商店街は、「忍者ハットリくんに出逢える街」というキャッチフレーズを掲げて、地域おこしを推し進めている。比美町商店街からほど近い曹洞宗の古刹、光禅寺が、『忍者ハットリくん』の作者であるまんが家の藤子不二雄A氏の生家なのだ。

比美町商店街に初めてハットリくんがお目見えしたのは、一九九二年だった。湊川にカラクリ時計が設置され、氷見市長室に忍者ハットリくんの絵が寄贈された。

一九九六年には、比美町商店街のオリジナルキャラクター『氷見サカナ紳士録』のモニュメントが設置され、二〇〇〇年には、道の駅のイメージキャラクター「ひみぼうずくん」が登場した。

二〇〇六年から二〇〇八年にかけての三ヶ年では、富山県の「がんばる商店街支援事業」の補助金を活用し、「まちなかAワールド構想」の展開を開始した。ここでは、三ヶ年で一千万円の事業が計画され、実行された。資金は、富山県が三分の一、氷見市が三分の一、比美町商店街が三分の一を負担した。



古くからある氷見市の商店街はひとつきりではなく、国道四一五号線および国道三七三号線上に南北に連なった形で伸びている。この商店街を一本の「まんがロード」に変えていくことが、地域おこしにおける目標のひとつだ。

比美町商店街のテーマが『忍者ハットリくん』、その北に位置する中央町商店街が『笑ゥせえるすまん』だ。それぞれのテーマに沿ったモニュメントや壁画、シャッターアートなどが展開されている。次は、比美町商店街の南側を『怪物くん』でにぎやかさせ、JR氷見駅から商店街までの道案内を担ってもらう計画だという。

そうした地域おこしの一環として、比美町商店街を中心に、藤子Aキャラをモチーフとするイベントが春と秋に定期開催されている。筆者は、二〇一三年春から毎回、イベントのたびに氷見市を訪れ、スタッフとして参加させてもらっている。

## ● 二〇一四年十月五日、本番当日の日記より

近づく台風の影響で、天候には恵まれていない。メインステージは、光禅寺山門前の駐車場から急遽変更。旧市役所に特設屋内ステージが組まれた。旧市役所は翌月に取り壊しが決定しており、偶然ながら「さよならイベント」の意味合いも帯びて、感慨深いものとなった。

朝から風が強く、雨がぱらついている。午前九時半、比美町商店街や商工会議所、市役所のスタッフを始め、富山大学文学部の女の子三人、大阪在住のまんが家といった運営メンバーが光禅寺前に集合。本川裕治郎・氷見市長（政務の都合で喪黒福造コス）の挨拶の後、A先生キャラの石像前で記念撮影。

ちなみに、ハットリくんの誕生日である五月五日におこなわれたイベントでは、A先生が八十歳を迎えられた年であることを記念して、八十人のスタッフがA先生キャラのコスプレを披露した。本川市長は怪物くん姿で登場し、その日は来賓の接待を含む政務のすべてを、魔界のわがままプリンスに扮して執りおこなった。

午前十時になると、『忍者ハットリくん』や『怪物くん』のテーマソング、比美町商店街のオリジナルキャラクターを歌った『プリンスサンバ』が軽快に流れ出す。ハットリくんの着ぐるみや、いろいろなAキャラのコスプレをした運営メンバーが、小さな町を闊歩する。いつもの氷見の“まつり”の空気だ。

本日の私の担当は、大阪在住のまんが家・みさき明良さんのイラスト教室のアシスタント。会場は、A先生のご生家、光禅寺の本堂。みさきさんとともに、畳の上に低い長机を並べ、画板上質紙を挟み、鉛筆や消しゴム、色鉛筆を準備する。

定員十名の子どもさんを想定してシミュレーション。十人も来ていただけたら嬉しいが、二人では手が回らない。一人も来なかったら、という不安も頭をかすめた。

準備を整え、光禅寺山門前でじゃんけんイベント「手裏剣奪還の巻」を担当する富大生たちと、交代で食事に行く。藤子ワールドまつりの今日、商店街では「百縁笑店街」というワンコインフェアを展開している。みさきさんと私は、レストランホリエさんのブラックカレー（五百円）をいただいた。レストランホリエさんでは、氷見限定の藤子不二雄グッズも販売されているので要チェック。

光禅寺に戻り、『プロゴルファー猿』にちなんだ「旗包みチャレンジ」のボール拾いを手伝う。やたらと弾むおもちゃのゴルフボールを、右に左に追いかける。野球のミットがほしい。

境内では『笑ッせえるすまん』にちなんだ「どーんどん大会」もおこなわれていた。「ドーン！」の背景パネルの前で「ドーン！」と叫び、市役所から持ち出した騒音測定器で大声を競うのだ。

旗包みもどんどんも、景品が用意されていた。東京のトキワ荘通りから取り寄せた「チューダー飴」だ。トキワ荘通りプロジェクトの中心人物も来場し、光禅寺はにぎわった。

十三時、みさき明良さんのイラスト教室がスタート。最初は三人姉妹、少し遅れて二人の姉妹が参加してくれた。

雨が降らなければ、境内のAキャラの石像実物を見ながらイラストを描く予定だったが、あいにくの天気。石像のハットリくんと怪物くんを撮った写真をモデルにすることになった。

“写生”ではなく“イラスト”なので、写真を元に、背景や小物なども自由に描いてもらう。小学校の一コマと同じ四十五分の教室。しかしながら、短すぎた。鉛筆での線画からスタートし、色鉛筆での色塗りに入った時点で、終了の時間となってしまった。

子どもたちの描く絵は個性的。インパクトのある構図で元気に描く子、細部や背景を丁寧に描く子、鉛筆の線画をすっ飛ばしてカラフルなイメージを描く子。もっと自由に、もっとじっくりと、イラストを楽しんでもらい、完成させてほしい。

みさき明良さんのイラスト教室の実績を踏まえ、今後は商店街にある潮風ギャラリーで、同様のイベントをしばしば開催していく方針という。また、東京都豊島区にあるトキワ荘通りや、トキワ荘時代の仲間であった面々の故郷などとも結びつきを深め、ともに地域おこしを進めていきたい考えと聞く。

氷見の「まんがロード」は、例えば鳥取県境港市の「水木しげるロード」のように完成されたコンテンツとは、まだまだいえない。氷見を訪れ応援する観光客に支えられてこそ、「まんがロード」は成長していく。

さあ、藤子不二雄ファンでトキワ荘に憧れのある読者諸兄、ぜひとも北陸は富山県氷見市へと足を伸ばそう。偉大なるまんが家を生み育んだまちがどんなふうになぎわいを取り戻していくか、その発展過程を楽しみに、「まんがロード」の完成を心待ちにしよう。

#### 【氷見の“きとき”な情報サイト】

- ・氷見市比美町商店街ホームページ

(<http://fuzikoworld.com/>)

- ・氷見市観光ポータルサイト きときとひみどっとこむ

(<http://www.kitokitohimi.com/>)

